

神宿る。

能登國一宮・氣多大社

神木の杜

ちょうど能登半島の付け根あたりにこの神社はある。  
「けたたいしゃ」と読む。境内裏手には、神社において  
社殿や神社境内を囲うように密生してる原生林の「社叢」  
が広がっている。「入らずの杜」として立ち入りは禁止さ  
れている。

神宿る。能登國一宮 氣多神社 神木の杜 片山通夫



祭神の大己貴命は出雲から舟で能登に入り、国土を開拓したのち守護神としてこの地に鎮まるとされる。



神社裏手の「入らずの杜」





祭神の大己貴命（大国主）は、社伝（『氣多神社縁起』）によれば、第八代孝元天皇の御代に祭神の大己貴命が出雲から 300 余神を率いて来降し、人民を苦しめていた化鳥・大蛇を退治して海路を開いたという。『古事記』によれば、その後大己貴命は翡翠の女神沼河比売命（ぬなかわひめ）と結ばれた。翡翠は新潟県糸魚川産が有名。神代の時代から神秘的な勾玉として用いられた。